図書館員が選んだおすすめ本 100冊

ヨコクン

Yokote City Librarians One Hundred Recommended Books 2025



たくさんの本の中からどんな本を読んだらいいか迷ってしまう、
そんな人に、本を選ぶきっかけとなるブックリストを作成しました。
横手市立図書館のスタッフ 31 人がそれぞれに選んだ一冊です。

これ面白いから読んでみて！私が選んだ本の話をしましょう！
そんな想いを持って図書館でお待ちしています。

あなたの一冊に出合ってほしい。
みなさまに本との新たな出合いが訪れますように。

横手市立図書館

※本の紹介文はニックネームで掲載しています。

※掲載の 100 冊はすべて市内の図書館で借りることができます。
お近くの図書館にないときは予約してください。お取り寄せいたします。

『地雷グリコ』

青崎　有吾/著　　KADOKAWA　2023



913.6ア

見た目はギャルだが天才的な頭脳を持つ高校生・射守矢真兎が、5つの特殊なゲームに挑む連作短編集。一見やる気の無さそうな彼女が、その洞察力と理詰めで癖のある対戦者達を論破し勝利を重ねていく姿が痛快な一冊。（ゆこリン）

『木曜日にはココアを』

青山　美智子/著　　宝島社　2017



913.6ア

ココアを飲んでいる女性、卵焼きを作るママ、ネイルを塗る先生……。人々の何気ない日常が小さな喫茶店「マーブルカフェ」で少しずつ繋がっていく。一杯のココアから始まる12色の優しい物語。（momo）

『深夜カフェ・ポラリス』

秋川　滝美/著　　アルファポリス　2023

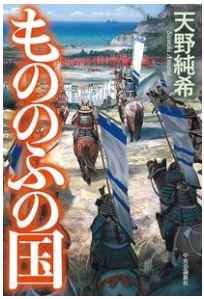


913.6ア

病院の近くにあるこじんまりとした深夜営業のカフェ。仕事や家庭に悩みを抱えた人々が店主の美味しい料理と明るい笑顔に癒される。カフェで過ごすひと時に人生の希望を見出していく短編集。（まりも）

『もののふの国』

天野　純希/著　　中央公論新社　2019



913.6ア

これまで日本の歴史に登場してきた武士たちは「海族」「山族」のいずれかであり、その対立が時代を動かしてきたというアプローチから描かれた物語。絵巻物のように、平安末期から明治維新にかけて話が展開していく。（T）

『まだ温かい鍋を抱いておやすみ』

彩瀬　まる/著　　祥伝社　2020



913.6ア

子どもを思い考え込まれた栄養満点の夕食も、家族を亡くし悲しむ友人のための不器用なシチューも、大切な人を思い作られた特別な食事だった。食を通して、前を向き、明日もまた生きたいと思わせる短編集。（かぼちゃ）

『病弱探偵』

岡崎　琢磨/著　　講談社　2017



913.6オ

病気がちで学校は欠席続きの高校一年生・貫地谷マイ。幼馴染の山名井ゲンキは、お見舞いがてら学校で起こった不思議な事件を彼女のベッドサイドに届ける。毛布に包まり様々な症状に苦しみながら謎を解き明かしていく。（まめた）

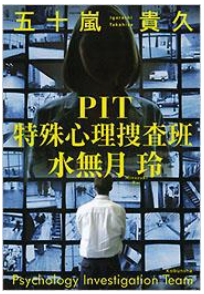
『華岡青洲の妻』
有吉　佐和子/著　　新潮社　2004



913.6ア

江戸時代世界初の麻酔薬を作り、外科手術を成功させた華岡青洲。その偉業達成のために、競うように薬の実験台となった妻と母がいた。しかし、この美しい話の裏には、一人の男をめぐる嫁姑二人の女の暗い闘いがあった……。（モフモフ）

『PIT 特殊心理捜査班・水無月玲』
五十嵐　貴久/著　　光文社　2018



913.6イ

プロファイラー水無月率いる捜査班に異動を命じられた犯罪予測システムの開発者・蒼井は、連続猟奇殺人犯を追うことになる。人間のプロファイリングと AI の犯罪予測、犯人特定はどちらが先か。予測不能な警察ミステリー。（茶トラ）

『花ざかりを待たず』
乾　ルカ/著　　光文社　2023



913.6イ

末期癌が発覚し、予想以上の速さで病が進行する父。その父に母は長女の花嫁姿を見せたいと奮闘するが、独身、実家暮らしで作家活動をしている長女は結婚に見向きもしない。ぶつかりながらも互いを思いあう家族の物語。（あーさん）

『そして誰もいなくなる』
今邑　彩/著　　中央公論社　1993



913.6イ

名門女子高の演劇部による舞台「そして誰もいなくなった」の上演中に一人が殺害され、それを皮切りに物語と同じ順序と方法で部員たちが殺害されていく。アガサ・クリスティー不朽の名作をオマージュした学園ミステリー。（おこめ）

『じんかん』
今村　翔吾/著　　講談社　2020



913.6イ

謀反を起こした家臣をこれまで厳しく罰してきた織田信長は、2度目の謀反を企てた家臣・松永久秀には「許す」と言った。その言葉に混乱する小姓・又九郎の前で、信長は静かな笑みを浮かべながら語りだす。（T.T）

『でぃすぺる』
今村　昌弘/著　　文藝春秋　2023



913.6イ

小学校の壁新聞で町の七不思議を調査することになった掲示係の3人。寂れた田舎町にまつわる怪談には 1 年前に起こった殺人事件の謎を解く手がかりが隠されていた。推理 VS オカルト、事件の真相は？（I.K）

『八月の銀の雪』
伊予原　新/著　　新潮社　2020



913.6イ

自作のロボットを動かすことが趣味の堀川は就活が上手くいかない。ひょんなことから、コンビニで働くベトナム人のグエンと話すことに。愚鈍な留学生に見えた彼女の本当の姿は。科学の神秘をちりばめた全5編の短編集。（菅さん）

『零の晩夏』
岩井　俊二/著　　文藝春秋　2021



913.6イ

ある１枚の絵をきっかけに美術雑誌の記者になった花音は、描いたモデルが必ず死に至るという噂を持つ絵師ナユタの記事を任される。死を色濃く匂わせる謎多きナユタに翻弄される中、花音は思いもよらない運命と巡り合う。（おこめ）

『ジャパン・トリップ』
岩城　けい/著　　KADOKAWA　2017



913.6イ

小学生のショーンは、京都へ行きたいという目的のため、オーストラリアから短期留学に参加した。様々な日本文化を満喫していたが、ある理由のため衝動的に京都行電車に乗ってしまう。異国で成長していく少年少女の物語。（かぼちゃ）

『間宵の母』
歌野　晶午/著　　双葉社　2019



913.6ウ

小学３年生の詩穂と紗江子は親友同士。しかし詩穂の母がみんなの人気者だった紗江子の継父と不倫・駆け落ちしたことから、二人の人生は狂い始める。世代を越えて連鎖する、人間の闇を描くホラーミステリー。（I.K）

『にわか名探偵ワトソン力』
大山　誠一郎/著　　光文社　2024



913.6オ

和戸が所属する第三係の検挙率は驚異の１０割！その理由は、和戸が謎に直面した時、一定の範囲にいる人間の推理力を飛躍的に向上させる力（ワトソン力）にあった。連続する7つの事件を、和戸はワトソン力で解決していく。（りんご）

『喫茶とまり木で待ち合わせ』
沖田　円/著　　実業之日本社　2022



913.6オ

仕事優先で家族に向き合うことができず離婚した女性、アクセサリー作りの趣味を友人に言えずにいる男子高校生。そんな悩める人々を優しく迎える喫茶店がある。ちょっぴり切なくて心があたたかくなる連作短編集。（ことら）

『箱庭図書館』

乙一/著　集英社　2011



913.6ｵ

一つの町を舞台にミステリー、ホラー、青春など 6 つのストーリーが展開する短編集。接点のない登場人物たちが町の図書館をきっかけに出会い、物語が紡がれていく。人と人の温かな巡り合わせに心を揺さぶられる。（おから）

『月の上の観覧車』

荻原　浩/著　新潮社　2011



913.6ｵ

晩年期の主人公たちが人生を振り返る 8 つの短編集。月夜に自分の所有する遊園地の観覧車に乗り、亡き家族たちを回想する男の姿を幻想的に描いた表題作ほか、後悔しても取り戻せない過去の記憶を辿るほろ苦くも深い物語。（パセリ）

『雨露』

梶　よう子/著　幻冬舎　2023



913.6ｶ

鳥羽伏見の戦いの後、新政府軍が江戸に迫る。兄と共に彰義隊に加わった臆病者の武士・勝美は、民を守りたいとの一心で迎え撃つも強大な新政府軍にわずか半日で敗北する。勝美ら隊士の葛藤と悲しい運命を描く歴史小説。（みんと）

『幸せジャンクション』

香住　泰/著　ﾃﾞｨｽｶﾞｰ・ﾄｩｴﾝﾃｨﾜﾝ　2023



913.6ｶ

浜浦が帰省先から戻ると、会社が夜逃げ同然に倒産していた。退職金として渡されたキャンピングカーで老婦人を助けたところ、車を気に入った彼女から東京までの送迎を依頼される。キャンピングカーが繋げる幸せの物語。（かぼちゃ）

『鯨の岬』

河﨑　秋子/著　集英社　2022



913.6ｶ

夫、息子夫婦と暮らす奈津子。孫に腐敗鯨の爆発動画を見せられ激しい動悸がして、独特の臭いが蘇る。母の見舞い途中、幼い頃暮らした捕鯨の町へ立ち寄り、楽しかった記憶の中に思いもよらない事実が判明した。（ばなな）

『テーラー伊三郎』

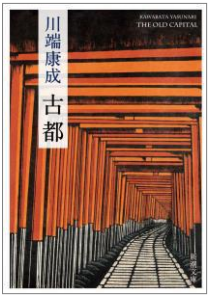
川瀬　七緒/著　KADOKAWA　2017



913.6ｶ

古びた紳士服店に突如飾られた女性用コルセット。田舎町は騒然となり批判を浴びるが、店主伊三郎と海色たち高校生、老練職人、お婆ちゃんたちは協力し医療機能も兼ねた美しいアウターのコルセットを完成させ話題となる。（パセリ）

『古都』
川端　康成/著　新潮社　2022



京都の呉服問屋の娘・千重子は祇園祭の夜、自分とそっくりの女性と出会う。彼女は赤ん坊の頃に生き別れた双子の妹・苗子だった。二人が互いを思い合う心情を、京都の美しい四季と共に抒情豊かに描く。（ゆこリン）

913.6ｶ

『ちょっと今から仕事やめてくる』
北川　恵海/著　KADOKAWA　2015



隆はブラック企業勤めで心身が疲弊し、自暴自棄になっていた所をある男性に救われた。彼と交流する中で少しずつ自信を取り戻していく。また、かつて救えなかった兄弟に隆を重ね気にかける男性の姿は切なくも温かい。（まる。）

913.6ｷ

『おあとがよろしいようで』
喜多川　泰/著　幻冬舎　2023



購入したこたつを背負って駅を歩く門田団平に声をかけたのは、大学構内で落語を披露していた男だった。「お前、落語研究会に来い」。金も夢もなく、コミュニケーションに自信もない団平は、落語で人生を変えられるのか。（T.T）

913.6ｷ

『街の灯』
北村　薫/著　文藝春秋　2003



昭和初期を舞台に士族の令嬢英子と女性運転手ベッキーさんが身の回りの些細な謎を解き明かすミステリー小説。戦前のゆったりとした上流階級の雰囲気が感じられる、後に直木賞を受賞したベッキーさんシリーズの第一作。（さくら）

913.6ｷ

『雪子さんの足音』
木村　紅美/著　講談社　2018



「わたしが死んだとき、きれいなうちに下宿人に見つけてもらえたら」そんな魂胆をもって下宿屋をはじめた未亡人の雪子。大学生の薫や会社員の小野田と過ごす日々が淡々と綴られる中、それぞれの後ろ暗い思いが交差する。（菅さん）

913.6ｷ

『朱より赤く』
窪　美澄/著　小学館　2022

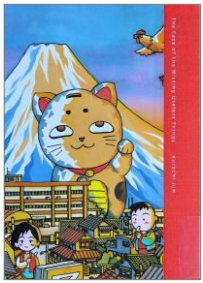


明治時代、情夫への思いを証明するため自身の小指を切り落としたことで有名になった実在の芸妓・照葉を描いた作品。その美貌が故の苦悩と華やかな生活の裏で抱えた孤独、後に出家し尼となるまでの波乱に満ちた生涯を辿る。（ゆこリン）

913.6ｸ

『ほうかご探偵隊』

倉知　淳/著　講談社　2004



授業で描いた絵、存在感の薄い飼育小屋のニワトリ、中身は空の募金箱、縦笛の真ん中部分……。無くなっても困らないモノの消失事件は次第に重大犯罪の気配を帯びてゆく。どんでん返しの連続が爽快な本格推理小説。（ふっくん）

913.6ｸ

『この限りある世界で』

小林　由香/著　双葉社　2023



犯行前日にSNSで殺害予告し同級生を刺殺した15歳の少女。篤志面接委員の結実子は犯行動機を二転三転させ、少年院の面接でも心を許さない少女の本当の動機の解明に奔走する。ネット社会の闇と更生の難しさを描く。（パセリ）

913.6ｺ

『華ざかりの三重奏』

坂井　希久子/著　双葉社　2023



中学校の同窓会で45年ぶり再会した可南子と芳美は、一緒に暮らす事にする。そこに近所に越してきた同じ年の香織が加わる。寂しさや悩みを支えあいながら、還暦を迎える彼女たちの物語が愉快に始まる。（あーさん）

913.6ｻ

『蛇行する月』

桜木　紫乃/著　双葉社　2013

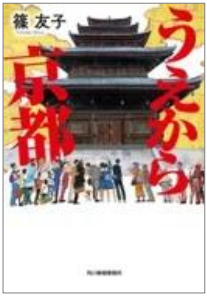


退屈な高校生活で唯一の楽しかった図書部の部室。一緒に過ごした仲間が大人になっていく中で感じる嫉妬や諦めや後悔。順子だけは、あの頃と変わらず度を超すほどのひたむきさで生きる。幸せとは何かを問う連作短編集。（菅さん）

913.6ｻ

『うえから京都』

篠　友子/著　角川春樹事務所　2022

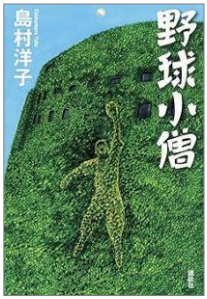


現代日本の政治・経済を立て直すため、京都が立ち上がる。東京に対抗するため、先ずはそれぞれ思惑のある京阪神をまとめる必要があり、大阪と高知の観光事業をまとめた実績のある高知県庁職員の坂本龍子が京都に呼ばれる。（りんご）

913.6ｼ

『野球小僧』

島村　洋子/著　講談社　2012

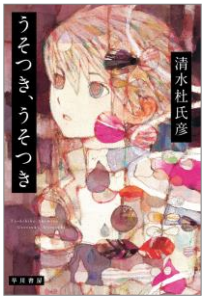


甲子園球場でグラウンド整備のアルバイトをしている雪彦は、自分の未来を奪った男を探していた。ある日、カオルという女性に出会う。この出会いが雪彦に大きな影響を与える。彼ら「野球小僧」の葛藤を描いた一冊。（Y.S）

913.6ｼ

『うそつき、うそつき』

清水　杜氏彦/著　　早川書房　2015



913.6ｼ

首輪型嘘発見器の装着が義務化されたこの国では、4歳以上の全国民に5つの会社が生産したどれかの首輪が充てがわれた。18歳の少年フラノは非合法に除去することを生業とし、友人の妹を救うために除去困難な型を探す。（ノラネコ）

『緑の窓口』

下村　敦史/著　　講談社　2017



913.6ｼ

住民の苦情対応に苦慮していた区役所職員の天野。一転、樹木トラブルを扱う部署「緑の窓口」に配属されることに。若くて美人、樹木をこよなく愛する樹木医・柊紅葉とともに、ものいわぬ樹木の問題に立ち向かう。（砂糖さん）

『大江戸ゴミ戦争』

杉本　苑子/著　　文藝春秋　1991



913.6ｽ

楽に稼げるという瓜収穫に集ったのは、なぜかゴミ収集の人足ばかり「瓜長者の野望」。捨てられてしまった大金入りのぬか床を追う「春のうららの十万坪」など、ゴミにまつわる7つのドタバタ時代劇。（ふっくん）

『極卵』

仙川　環/著　　小学館　2014



913.6ｾ

安心安全の高級自然卵「極卵」に起因する食中毒事件が発生。死者 10 人を出し世間を揺るがす騒動に発展していく。出荷元や地鶏開発研究所に捜査が入る中、フリーライターの瀬島桐子が事件の真相に迫る社会派サスペンス。（ことら）

『虹にすわる』

瀧羽　麻子/著　　幻冬舎　2019



913.6ﾀ

家具の修理屋として単調な日々を送る徳井のもとに、大学の後輩の魚住が転がり込んできた。芸術家肌の魚住は、職人気質の徳井に椅子工房を始めようと誘いかけた。正反対な二人はぶつかりながら職人として成長していく。（まめた）

『甘いもんでもおひとつ』

田牧　大和/著　　文藝春秋　2013



913.6ﾀ

亡き父の菓子職人の才を受け継いだ兄・晴太郎と商売上手でしっかり者の弟・幸次郎が営む江戸神田の小さな菓子屋「藍千堂」。因縁ある叔父の無理難題に屈せずに店を切盛りする。シリーズ 1 作目。（ばなな）

「沖田総司壬生浪」

鳥羽　亮/著　　徳間書店　2009



913.6ト

幼くして両親を亡くし、剣の道に生きることを決めた沖田総司。新撰組に入隊し、時代の波に呑み込まれても、己の剣の道をひたすら突き進んだ天才剣士の物語。人々の心情や生き様を沖田の目線から描いた一冊。（TKLR）

『無実の君が裁かれる理由』

友井　羊/著　　祥伝社　2019



913.6ト

同級生へのストーカーを疑われた法学部生の牟田幸司。身に覚えはないが「証拠」があると周囲からも犯人扱い。心理学科の先輩・遠藤紗雪の協力を得て、証拠能力について調べを進める。冤罪をテーマにした連作短編集。（わんこ）

『警察医の戒律』

直島　翔/著　　角川春樹事務所　2022



913.6ナ

ニューヨーク帰りの法医学者・幕旗。神奈川県警に新設されたジェンダーフリー班の個性的な刑事たちと、警察医として事件の真相を突き止めるために、自身も心の傷を抱えながら死者に向き合う。（モフモフ）

『ないたカラス』

中島　要/著　　光文社　2014



913.6ナ

和尚は千里眼だと噂を流し、寺男の機転の良さで寺に転がり込む事件を解決して金を稼いでいた幼馴染の二人。涙もろく情が深い偽和尚・三太と、口は悪いが話術が武器の寺男・弥吉の、生きる様を描いた人情時代小説。（砂糖さん）

『小説らくだ』

並木　飛暁/著　　二見書房　2020



913.6ナ

長屋で有名な乱暴者「らくだ」が急死したところから始まる小説落語噺。死体に「かんかんのう」を躍らせ香典をせしめるらくだの兄弟分とそれに嫌々加担させられる屑屋だが、ある場面から二人の立場が逆転する構図は見物。（まる。）

『唐木田探偵社の物理的対応』

似鳥　鶏/著　　KADOKAWA　2023



913.6ニ

実体を持った怪異によって年間数百人が死に至る。生き残る方法はただ一つ、物理的に攻撃すること。怪異に襲われた僕は、怪異駆除を専門とする唐木田探偵社に保護され、怪異との戦い方を学んでいくことになる。（茶トラ）

『家裁調査官・庵原かのん』

乃南　アサ/著　　新潮社　2022



庵原かのんは、事件を起こした少年少女やその家族との面会を通して彼らの複雑な家庭事情や厳しい社会の現実に直面していく。当事者たちの声を聴き、寄り添う調査官の姿を描いた連作短編集。（茶トラ）

913.6ノ

『ロスト・イン・ザ・ターフ』

馳　星周/著　　文藝春秋　2023



中央でも地方でも成績の振るわないウララペツは、現役馬で唯一メジロマックイーンの血を引く産駒。容姿と血統に惚れ込み馬主となった倉本葵は、身近な競馬関係者たちを巻き込み、ウララペツの血を繋いでいこうと奮闘する。（砂糖さん）

913.6ハ

『図書館のお夜食』

原田　ひ香/著　　ポプラ社　2023

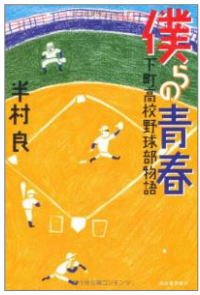


乙葉が転職した先は、亡くなった作家の蔵書を集めた、夜にだけ開館する図書館。有名作家の無茶なレファレンスに、愛書家の同僚達と奮闘する日々。本に登場する料理のまかないに心満たされながら、働く意味を見つけていく物語。（きなこ）

913.6ハ

『僕らの青春　下町高校野球部物語』

半村　良/著　　河出書房新社　2010



下町高校に通う駒田と片山は、大学進学を重視するあまりクラブ活動に厳しい制限を課している学校に不満を感じていた。そこで二人は、野球経験者を集めて野球部を結成することに。青春を取り戻すため奮闘する決意の物語。（Y.S）

913.6ハ

『フェイク・マッスル』

日野　瑛太郎/著　　講談社　2024



男性アイドルグループのメンバー・大峰は3ヵ月のトレーニング期間にもかかわらずボディビル大会で3位に輝く。称賛の一方、SNSではドーピング疑惑が。その筋肉は偽りの物なのか……。新人記者・松村はジムへの潜入取材に挑む。（わいわい）

913.6ヒ

『大雪物語』

藤田　宜永/著　　講談社　2016



観測史上最大の豪雪に閉ざされたＮ県Ｋ町。若いひったくり犯と老女、遺体運搬業者と遺族、行方不明の姉と再会した自衛隊員など、それまで関わりのなかった人々の出会いが心温まる物語を紡ぎだす。（ふっくん）

913.6フ

『ピエタとトランジ』

藤野　可織/著　　講談社　2020



913.6ﾌ

頭脳明晰な探偵のトランジは事件を引き寄せてしまう体質。そんな彼女に惹かれ助手になったピエタ。トランジに隠された秘密は人類を巻き込む。高校時代から続く二人の周りで起こる不思議な事件と友情を描いた物語。（ヲ）

『百年の子』

古内　一絵/著　　小学館　2023

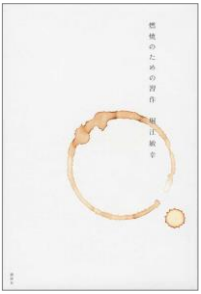


913.6ﾌ

出版社で働く明日花は、「創業百周年企画」のための資料を調べる中で、創業者が学年誌を作るために会社を立ち上げたことを知る。学年誌ができた戦中から令和まで百年の歴史は、子どもと女性の人権の歴史でもあった。（りんご）

『燃焼のための習作』

堀江　敏幸/著　　講談社　2012



913.6ﾎ

狭い雑居ビルの４階にある枕木探偵事務所には、コーヒーをこだわる枕木とアシスタント郷子がいる。そこへ熊埜御堂が離婚した妻と息子の調査を依頼しに訪れた。雷雨が過ぎるまでに交わされる3人の会話のラリーを描く。（ヲ）

『悟浄出立』

万城目　学/著　　新潮社　2014



913.6ﾏ

「西遊記」の沙悟浄や「三国志」の趙雲など中国の古典に登場する脇役達を主役にした短編集。表題作では、悟空や八戒の陰で傍観者となり果てていた沙悟浄が、新たな一歩を踏み出すエピソードが描かれる。（みんと）

『夜空に泳ぐチョコレートグラミー』

町田　そのこ/著　　新潮社　2021



913.6ﾏ

複雑な家庭の事情を抱えている中学生の晴子と啓太。彼女らの、悩みや辛さを抱えながらも、もがき泳ぐようだが前を向いて生きていこうとする姿を描いた表題作のほか、４編を収録した連作短編集。（T）

『しだれ桜恋心中』

松浦　千恵美/著　　早川書房　2014



913.6ﾏ

しだれ紅桜の下で若い文楽人形遣いの刺殺体が発見された。傍らには小刀が胸に刺さった花魁の人形があった。刑事の横田は、封印された「呪いの演目」再演と事件の関係を追う。伝統芸能文楽の世界を舞台にしたミステリー。（わんこ）

『カメオ』

松永　K 三蔵/著　　講談社　2024



913.6マ

物流倉庫に勤める高見は、倉庫の建築担当に任命される。厄介な隣地の住人からのクレームに振り回される中、ある事情からその男の愛犬・通称「カメオ」を預かることに。今度はその犬にも翻弄されていく。

（わいわい）

『神様ゲーム』

麻耶　雄嵩/著　　講談社　2005



913.6マ

神降市で連続野良猫殺し事件が起きた。クラスメイトのミチルが可愛がっていた猫も殺され芳雄は浜田探偵団の仲間と犯人を探す。そんな時掃除当番で一緒になった転校生の鈴木君が自分は神様で犯人を知っていると言うが……。（ノラネコ）

『決壊石奇譚　百年の記憶』

三木　笙子/著　　講談社　2013



913.6ミ

鉱石に刻まれた記憶を読み解く力を祖父から受け継いだ大地。大地と親しくなり力の影響を受ける徹。鉱石が伝える過去の出来事と想いに触れ二人はすれ違っていく。百年の時を超えて明かされる真実と友情の物語。（わんこ）

『終活シェアハウス』

御木本　あかり/著　　小学館　2024



913.6ミ

大学生の翔太は68歳の女性4人が暮らすシェアハウスで秘書のアルバイトをしていた。そこに翔太の彼女・美香も出入りするようになる。若い二人がシェアハウスの住人たちと世代を超えた交流を通じて成長していく物語。（まりも）

『アガサ・クリスティー賞殺人事件』

三沢　陽一/著　　早川書房　2014



913.6ミ

新人賞に落選し続けた作家志望の男が、絶望し人生最後の旅に出る。立ち寄った先々で、奇妙な事件に遭遇し真相を解明しようとする。青森、岩手、秋田、山形、東京が舞台の5編からなる短編集。

（TKLR）

『またうど』

村木　嵐/著　　幻冬舎　2024

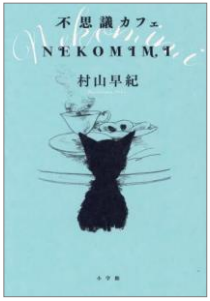


913.6ム

「またうど」とは「全き人」、正直でまじめな人物のこと。主君を立て、仲間を思いやり、真摯に国政と向き合う田沼意次を作中でとある人物がそう評した。賄賂まみれの悪徳政治家という従来のイメージを覆す一作。（ふっくん）

『不思議カフェ NEKOMIMI』

村山 早紀/著　小学館　2023

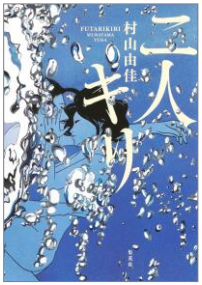


913.6ム

慎ましい暮らしをしていた律子は突然の体調不良で亡くなるが、不思議なランプと出会い魔法使いになる。黒猫メロディと共に旅をし、小さなカフェを開いて人や妖怪たちに寄り添っていくファンタジー。（momo）

『二人キリ』

村山 由佳/著　集英社　2024



913.6ム

少年時代から「阿部定事件」と深い関係がある脚本家の吉弥。事件を小説にするために彼女の関係者の証言を集め真実に近づいていく。愛を渇望し刹那的に生きた定の真実を、情熱的かつ大胆に描いた心揺さぶられる評伝小説。（コテテト）

『ファースト・プライオリティー』

山本 文緒/著　幻冬舎　2002



913.6ヤ

題名の意味は最も優先すべきこと。31歳の主人公ら31人の、仕事、結婚、家族など自分の人生の中で大事にしたいことについて描かれた31編の物語。悩みや考え方、生き方とは人それぞれなのだと感じさせられる。（T）

『高熱隧道』

吉村 昭/著　新潮社　2010



913.6ヨ

昭和11年、黒部第三発電所建設のための資材運搬トンネル掘削工事が始まった。温泉湧出地帯にある高熱の岩盤は、坑内の温度を急激に上昇させて人間の侵入を拒む。技師たちは無事にトンネルを通すことが出来るのか。（T.T）

『生を祝う』

李 琴峰/著　朝日新聞出版　2021

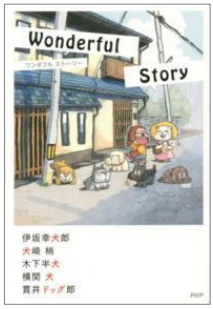


913.6リ

胎児が自分で生まれる可否を決定する「合意出生制度」が法制化され、胎児の許可なしでは出産が許されない世界。同性婚し人工授精で子を授かった彩華は周期を重ねるごとに不安を募らせる。産む権利、命の尊厳を問う。（パセリ）

『ワンダフルストーリー』

伊坂 幸太郎ほか/著　PHP 研究所　2014



913.6ワ

犬をテーマにした物語を、5人の作家たちが名前まで犬になりきって描いた作品。犬と話せる寡黙な犬の訓練士が、犬を通じて家族のわだかまりを解決に導く「パピー・ウォーカー」をはじめ5話のアンソロジー。（砂糖さん）

『暗い越流』

若竹　七海/著　　光文社　2014



死刑囚に差出人だけのファンレターが届き、主人公の「私」は弁護士の依頼で送り主を調べ始める。しかし、差出人は既に死亡していた……。「暗い越流」ほか、人間が抱える心の闇をテーマにした短編集。（さくら）

913.6ワ

『溝猫長屋祠之怪』

輪渡　颯介/著　　講談社　2016



祠をお参りしてから幽霊を「嗅ぐ」「聞く」「見る」ことで感じ取れるようになった男の子4人組。怖い思いをしても懲りず、度々曰く付きの場所に首を突っ込んでは幽霊騒動に巻き込まれるやんちゃ坊主達を生き生きと描く。（まる。）

913.6ワ



ここからはエッセイや
ノンフィクションの
ジャンルから選んだ
おすすめ本です

『時をかけるゆとり』

朝井　リョウ/著　　文藝春秋　2014



地獄のような仮装マラソンや独特な眼科医との珍妙で無意味なやりとり、そして突然起こる腹痛との闘い。著者が経験した学生時代や社会人の愉快な日々を軽妙でコミカルに綴った23編のエッセイ。（ことら）

914.6ア

『コーヒーにミルクを入れるような愛』

くどう　れいん/著　　講談社　2024



17歳の少女が憧れ、手の届かなかった全国高校文芸コンクールの最優秀賞。その表彰式で作家として講演するまで、彼女は付きまとう悔しさを原動力に書き続けた。日常に潜む愛や憐憫などを軽やかな文章で綴ったエッセイ。（かぼちゃ）

914.6ク

『夜明けを待つ』

佐々　涼子/著　　集英社インターナショナル　2023



これまでの人生や家族・病などについて語り、『エンド・オブ・ライフ』など死と生を見つめた著作の本質がわかる。2024年に夭折したノンフィクション作家初のエッセイ&ルポルタージュ集。（モフモフ）

914.6サ

『この星で生きる理由』

佐治　晴夫/著　KTC 中央出版　2022



北海道の美宙天文台長を務めた理学博士の著者が、「宇宙のカケラ」のタイトルで、幼少期から87歳までの日々の思いを綴った77のエッセイ集。巻末に NHK ラジオ深夜便「明日へのことば」も掲載。（りんご）

914.6 サ

『貴様いつまで女子でいるつもりだ問題』

ジェーン・スー/著　幻冬舎　2016



ピンク色が苦手、「可愛い」に対する違和感など女性が感じるモヤモヤを毒とユーモアを交えて描く。自身の拗らせや失敗も語った上で、年齢を問わずくすぶる「女子」問題に一つの答えを提示した痛烈かつ痛快なエッセイ。（おこめ）

914.6 ジ

『その世とこの世』

谷川　俊太郎・ブレイディみかこ/著
岩波書店　2023



2024年に亡くなった谷川俊太郎とブレイディみかこによる往復書簡。詩人とライター、日本とイギリス在住という二人の異なる視点から、死生観や世情を精緻な詩と鋭い言葉で語っている。（ゆこリン）

914.6 タ

『レモンパイはメレンゲの彼方へ』

もとした　いづみ/著　ホーム社　2016



絵本作家である著者による、おやつへの思いが語られたエッセイ。思い出のエピソードや普段感じていることなどがおいしそうな食べ物の描写とともに軽妙な筆致で綴られる。それらが登場する絵本や物語の紹介もしてくれる。（T）

914.6 モ

『祖母姫、ロンドンへ行く！』

椹野　道流/著　小学館　2023



「ロンドンに行ってお姫さまのような旅をしたい」という祖母の希望を叶えるため、アテンドする事になった孫娘の著者。優雅・豪華・贅沢を最大限に盛り込んだプランで出発した５泊７日のイギリス旅の話。（あーさん）

915.6 フ

『死の貝』

小林　照幸/著　文藝春秋　2024



風土病と呼ばれる、一定の地域に暮らす人だけが発症する病がある。太鼓腹、皮膚の黄疸、体重の減少を巻き起こした後に死亡する奇病は、甲府盆地の人々を長く苦しめてきた。原因不明の病の撲滅に挑んだ医師たちの記録。（T.T）

916 コ

『いただきますの山』

東元　理恵/著　　ミチコーポレーション　2022



916ヅ

里山に移住し「美味しいものを自分で獲って食べたい」という信念のもと猟銃免許を取り、いただくのは害獣昆虫爬虫類などあらゆる大自然。厳しい自然の中、暖かい地域の人々に支えられ過ごした女性の5年間の成長の記録。（おこめ）

『ぼくらはみんな生きている』

坪倉　優介/著　　幻冬舎　2001

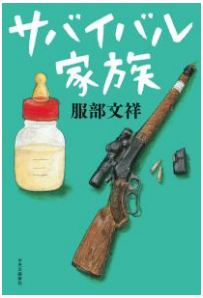


916ヅ

18歳の時、交通事故の後遺症ですべての記憶を失った筆者。食べる・寝る・排泄する……。生活に必要なすべてを忘れ赤子同然となってしまった彼をもう一度育て直し、救ってくれたのは母だった。12年におよぶ母子の記録。（I.K）

『サバイバル家族』

服部　文祥/著　　中央公論新社　2020



916ハ

自宅の庭で排泄する父、長男の弁当には大ネズミの唐揚げ、通過儀礼となった父子の狩猟登山。都会の片隅でワイルドに暮らす家族の日常を、サバイバル登山家として活動する著者がユーモラスに描く。（わいわい）

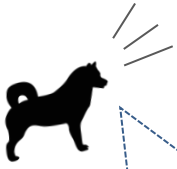
『オタク女子が、４人で暮らしてみたら。』

藤谷　千明/著　　幻冬舎　2020



916フ

アラフォー独身の筆者は友人らとルームシェアをすることに。物件がなかなか見つからず苦労の末始まった共同生活だったが、全員そろってリビングでアニメを視聴するなど愉快な日々が軽快な文章で綴られている。（I.K）



ここからは外国の
作家による作品から
選んだおすすめ本です

『不便なコンビニ』

キム　ホヨン/著　　米津　篤八/訳

小学館　2023



929.1ヰ

記憶喪失のホームレス孤独(トッコ)氏は、コンビニのオーナーであるヨムさんの財布を拾ったことから、彼女の店で働くことに。不器用ながらも従業員や客など、様々な人の悩みに寄り添い心を通わせていく物語。

（ノラネコ）

『小さな町』

ソン　ボミ/著　　橋本　智保/訳
書肆侃侃房　2023



ソウルで夫と暮らす私に、病に伏せる母が語る小さな町で暮らした思い出。幼い頃に兄を失った火事の悲劇、母の秘密……。消息を絶った父との再会により、知らなかった自分自身の過去と向き合うことになる。（きなこ）

929.1ソ

『回復する人間』

ハン　ガン/著　　斎藤　真理子/訳
白水社　2019



両足の甲を火傷した「あなた」は、病院からの帰り道に、自分と姉のことを振り返っていた。ノーベル文学賞を受賞した著者による、痛みを抱えながらも少しずつ歩みだす人間の姿を描いた短編集。「回復する人間」ほか６編。（まめた）

929.1ハ

『ハックルベリー・フィンの冒険（上・下）』

トウェイン/著　　土屋京子/訳
光文社　2014

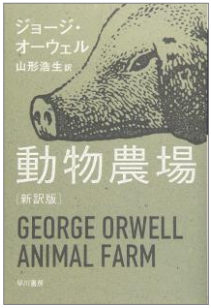


主人公の少年ハックが自由を求めミシシッピ川を下っていく冒険物語。相棒は逃亡奴隷の黒人ジム。二人は様々な困難に立ち向かいながら友情を深めていく。1840年頃のアメリカの様子が描かれた著者の代表作。（菅さん）

933.6ト

『動物農場』

ジョージ・オーウェル/著　山形　浩生/訳
早川書房　　2017



メイナー農場で鬱憤の溜まった動物達による反乱が起き、農場主夫妻と使用人達が追放。知能の高い二匹の雄豚を先頭に、平等で平和な農場になるはずが、一匹の豚の策略に事態は一変する。ロシアの独裁国家を皮肉った作品。（ノラネコ）

933.7オ

『ディビザデロ通り』

マイケル・オンダーチェ/著　　村松　潔/訳
新潮社　　2009



アンナは血の繋がりのない兄クープと惹かれあうが、父は関係を許さず、二人は引き離される。大人になったアンナは文学研究者として働き、過去の自分を彷彿とさせる作家のリシュアンに魅了されていく。複雑な人間関係を描いた物語。（Y.S）

933.7オ

『ステイト・オブ・テラー』

ヒラリー・R・クリントン/著　ルイーズ・ペニー/著
吉野　弘人/訳　小学館　2022



国務長官に任命されたエレン・アダムスは、就任早々ロンドン・パリ・フランクフルトで発生した連続爆発事件に直面する。その裏にはさらなる大きな恐怖が待ち受けていた。元政治家が描くリアルな政治ミステリー。（わいわい）

933.7ク

『解錠師』

スティーヴ・ハミルトン/著　越前　敏弥/訳
早川書房　2012



933.7ハ

とある事件をきっかけに言葉を失ったマイク。彼は微細な音や感触の違いを感じとりどんな鍵も開けられる才能を持っていた。やがてプロの金庫破りとなり犯罪に手を染めてしまう少年の姿や心を二つの時間軸で描いた物語。（ことら）

『モリアーティ』

アンソニー・ホロヴィッツ/著　駒月　雅子/訳
KADOKAWA　2015



933.7ホ

ホームズとの対決で死んだとされたモリアーティ教授にアメリカの裏社会が接触しようとしていた。情報を得た探偵チェイスとジョーンズ警部が共に捜査を始める。衝撃のどんでん返しが待ち受けるクライムストーリー。（みんと）

『赤い館の秘密』

A.A.ミルン/著　山田　順子/訳
東京創元社　2019

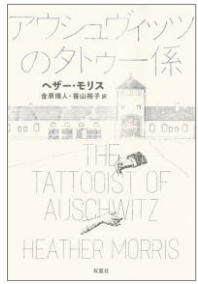


933.7ミ

赤い館で拳銃による殺人事件が発生。たまたま友人を訪ねてきて第一発見者となったギリンガムは友人を助手に事件の謎に挑む。「クマのプーさん」の作者として知られているA・A・ミルンによる本格推理小説。（モフモフ）

『アウシュヴィッツのタトゥー係』

ヘザー・モリス/著　金原　瑞人・笹山　裕子/訳
双葉社　2019



933.7モ

ラリは収容所で鑑識数字を彫るタトゥー係になり、列に並ぶギタと恋に落ちる。人の尊厳を守るため、ふたりは理不尽で残虐な世界に懸命に抗い続ける。史実とラリの記憶を元にした絶望と希望が隣り合わせのラブストーリー。（コテテト）

『タイムボックス』

アンドリ・S.マグナソン/著　野沢　佳織/訳
NHK 出版　2016



949.5ア

人類は様々な問題を先送りにすべく時間の干渉を受けない魔法の箱に逃げ込んだ。文明が眠り荒廃した未来で目を覚ましたこども達に、老婆は呪いともいえる箱にまつわる昔話を語る。過去と近未来が交錯するSFファンタジー。（まる。）

『悲しみよこんにちは』

サガン/著　河野　万里子/訳
新潮社　2009



953.7サ

17歳のセシルは父とその恋人と南フランスの別荘で夏の休暇を過ごす。母の旧友を父が別荘へ招いたことで状況が一変し、セシルは段々と悲しみを抱き始める。複雑な感情と出会い葛藤する少女を描く、サガンのデビュー作。（おから）

ヨコワン 2025
図書館員が選んだおすすめ本 100 冊

2025 年 10 月 25 日

横手市立図書館
【問合せ】
図書館課(横手図書館)
〒013-0036 横手市駅前町 2-12　電話 0182-32-2662